

令和7年度 全国学力・学習状況調査 伊奈町全体の調査結果概要

■調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■調査の概要

調査実施日 令和7年4月17日（木）
中学校理科の実施日：令和7年4月14日～4月17日のうち1日

- 調査対象 1 原則として全児童生徒を対象とする。
- 【小学校調査】 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 - 【中学校調査】 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
- 2 特別支援学校及び小・中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒については、原則として、当該事由に係る教科に関する調査の対象としない。
- ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合

調査事項 1 児童生徒に対する調査

(1) 教科に関する調査

- ①小学校第6学年 … 国語、算数、理科
- ②中学校第3学年 … 国語、数学、理科

※中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いたオンライン方式で実施する。

(2) 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、原則全ての児童生徒を対象に、児童生徒が活用するICT端末を用いたオンラインによる回答方式で実施する。

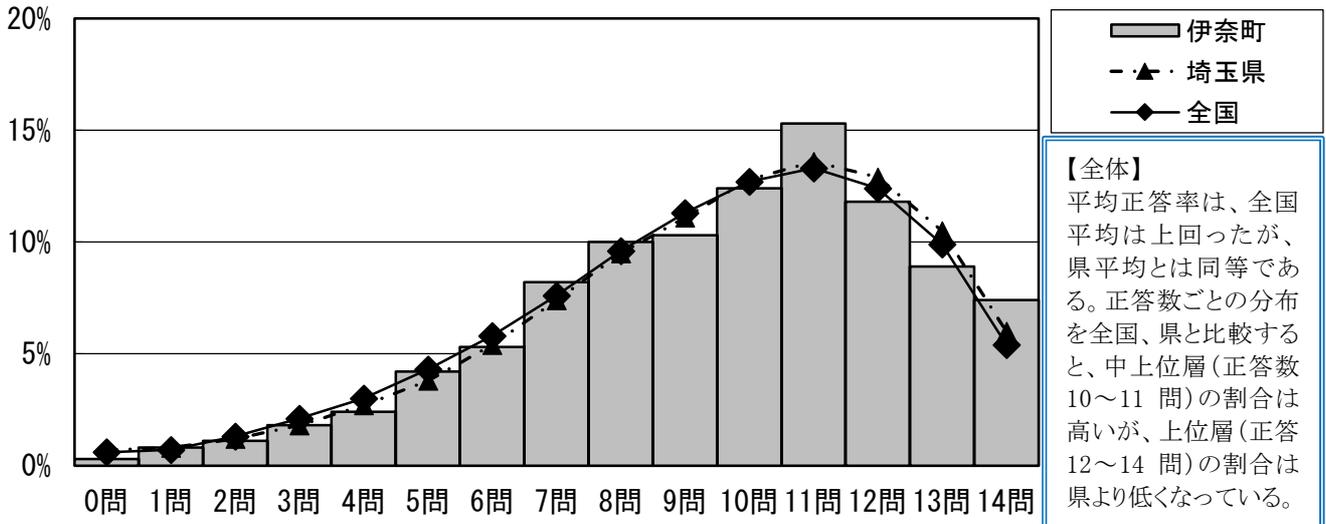
2 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を、オンラインによる回答方式で実施する。

■伊奈町調査結果概況（教科に関する調査）

【小学校調査】

〔国 語〕 （正答数分布グラフ 横軸：正答数、縦軸：割合）

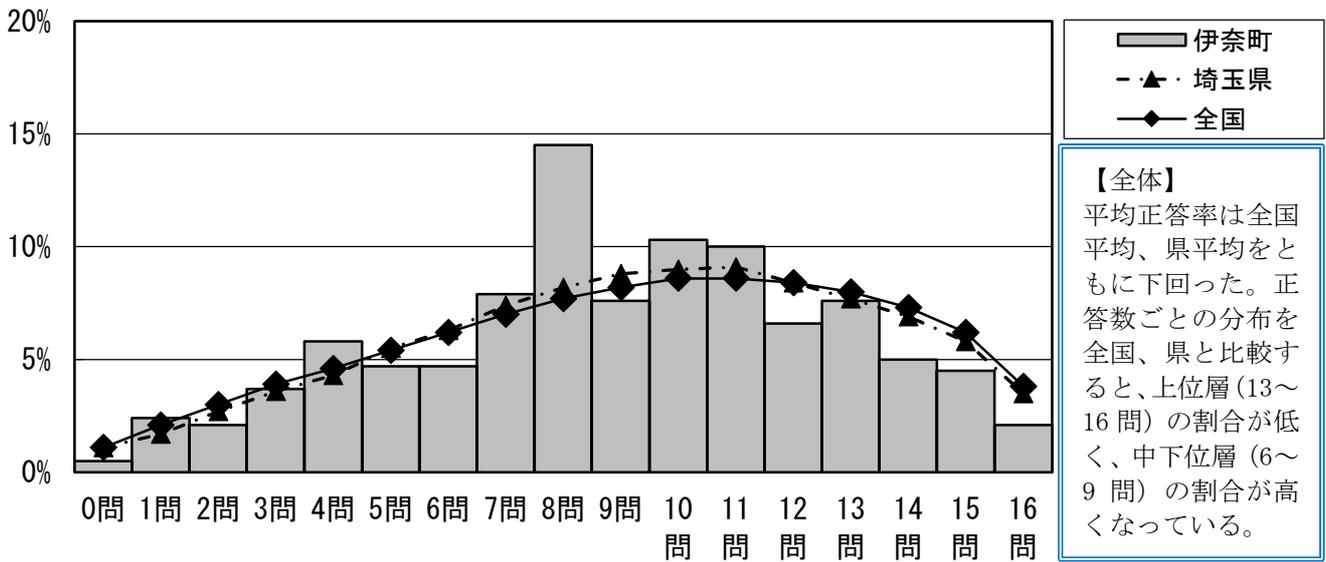


【全体】
平均正答率は、全国平均は上回ったが、県平均とは同等である。正答数ごとの分布を全国、県と比較すると、中上位層（正答数10～11問）の割合は高いが、上位層（正答12～14問）の割合は県より低くなっている。

	全体 (%)
	平均正答率
伊奈町	6.8
埼玉県	6.8
全 国	6.6.8

【領域（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）】
 ・「言葉の特徴や使い方」「書くこと」において、全国、埼玉県の平均正答率を上回っている。特に、「言葉の特徴や使い方」に関する問題では、出題された問題全てにおいて全国、埼玉県の正答率を上回った。
 ・「我が国の言語文化」において、全国、埼玉県の平均正答率を下回った。また、「読むこと」において、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」問題において正答率が41.3%と課題が見られた。（県平均41.8%）

〔算 数〕 （正答数分布グラフ 横軸：正答数、縦軸：割合）

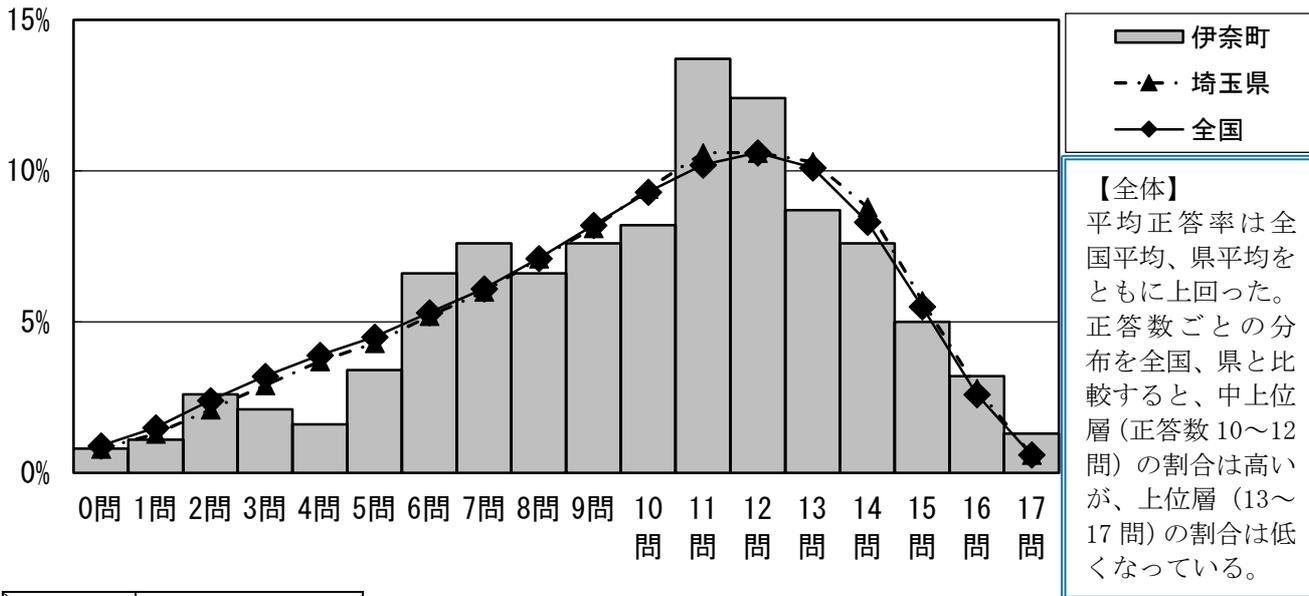


【全体】
平均正答率は全国平均、県平均をとともに下回った。正答数ごとの分布を全国、県と比較すると、上位層（13～16問）の割合が低く、中下位層（6～9問）の割合が高くなっている。

	全体 (%)
	平均正答率
伊奈町	5.6
埼玉県	5.8
全 国	5.8.0

【領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）】
 ・「データの活用」において、全国の平均正答率を上回っているが、埼玉県の平均正答率は下回った。
 ・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」において、全国、埼玉県の平均正答率を下回った。特に「数と計算」における「分数の加法について共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する」問題においては、全国の正答率より-7.2%と大きく下回り、課題が見られた。

[理 科] (正答数分布グラフ 横軸：正答数、縦軸：割合)



【全体】
 平均正答率は全国平均、県平均とともに上回った。正答数ごとの分布を全国、県と比較すると、中上位層（正答数10～12問）の割合は高いが、上位層（13～17問）の割合は低くなっている。

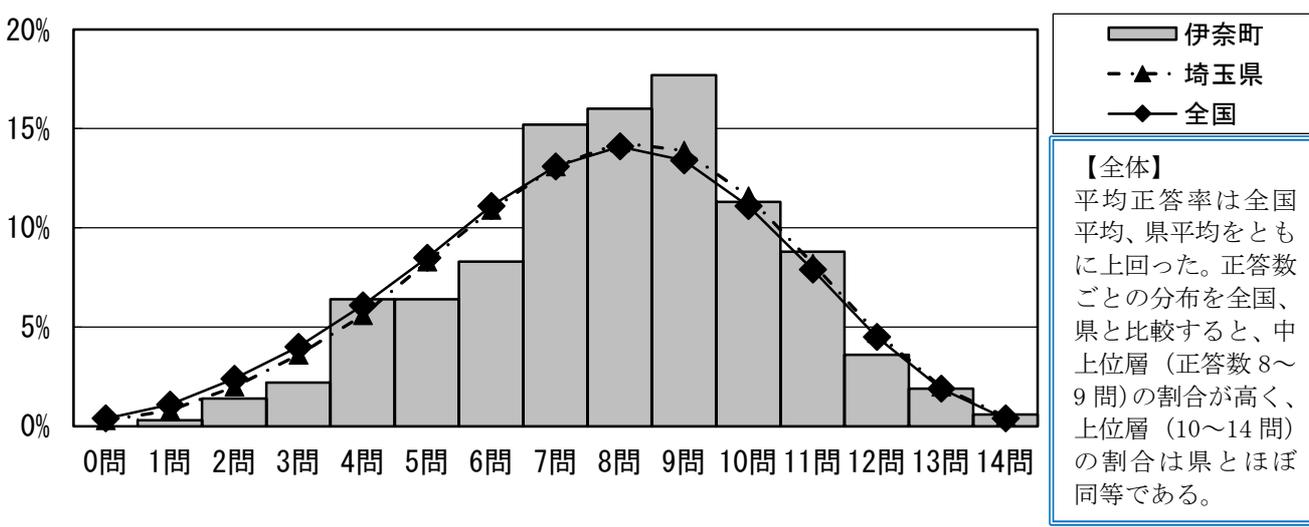
	全体 (%)
	平均正答率
伊奈町	5.9
埼玉県	5.8
全国	5.7.1

【領域(エネルギー、粒子、生命、地球)】
 ・「粒子」「生命」において、全国、埼玉県の平均正答率を上回った。「地球」においては、全国、埼玉県の平均正答率を上回っており、埼玉県の平均正答率とほぼ同程度である。
 ・「エネルギー」において、全国、埼玉県の平均正答率を下回った。特に「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識をはかる」問題において、正答率が8.9%と課題が見られた。(県平均10.5%)

■伊奈町調査結果概況 (教科に関する調査)

【中学校調査】

[国 語] (正答数分布グラフ 横軸：正答数、縦軸：割合)

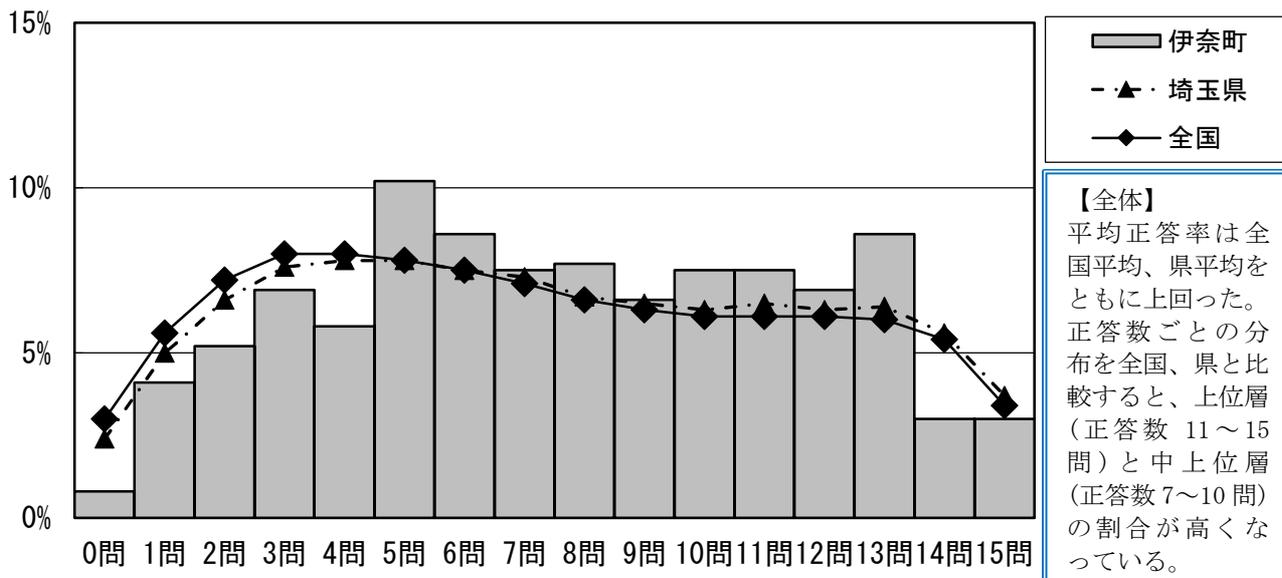


【全体】
 平均正答率は全国平均、県平均とともに上回った。正答数ごとの分布を全国、県と比較すると、中上位層（正答数8～9問）の割合が高く、上位層（10～14問）の割合は県とほぼ同等である。

	全体 (%)
	平均正答率
伊奈町	5.7
埼玉県	5.5
全国	5.4.3

【領域(言葉の特徴や使い方、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)】
 ・すべての領域に関する事項において、全国、埼玉県の平均正答率を上回っている。特に、「読むこと」に関する問題では、出題された問題全てにおいて全国、埼玉県の正答率を上回った。
 ・「話すこと・聞くこと」に関する事項の「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題では、全国と県の正答率を下回り、課題が見られた。

[数 学] (正答数分布グラフ 横軸：正答数、縦軸：割合)

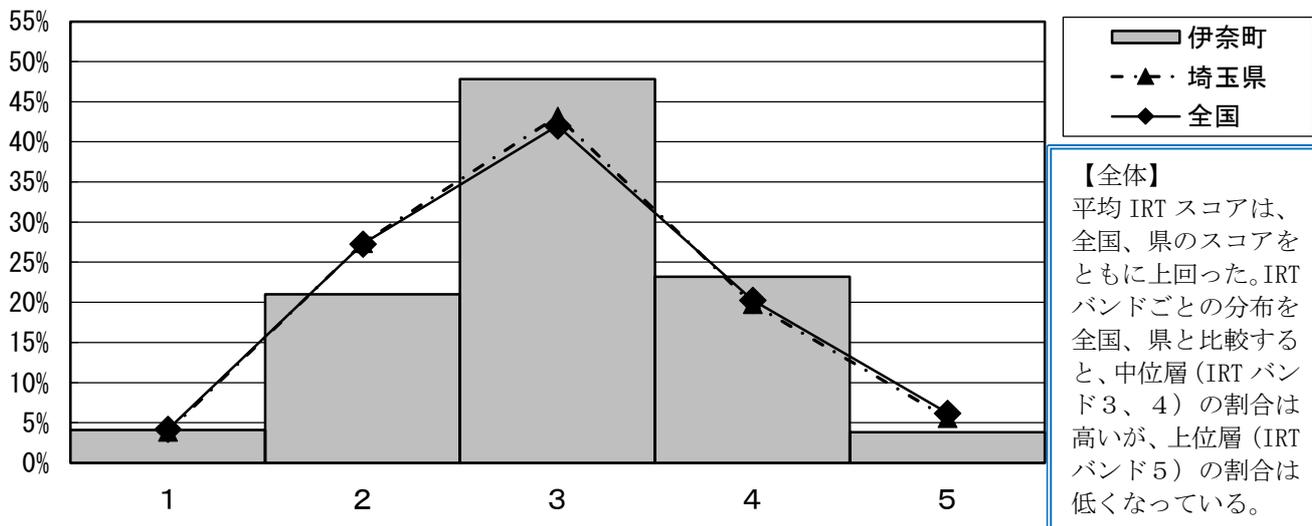


【全体】
 平均正答率は全国平均、県平均とともに上回った。正答数ごとの分布を全国、県と比較すると、上位層（正答数 11～15 問）と中上位層（正答数 7～10 問）の割合が高くなっている。

	全体 (%)
	平均正答率
伊奈町	5 2
埼玉県	5 0
全 国	4 8 . 3

【領域(数と式、図形、関数、データの活用)】
 ・すべての領域において、全国、埼玉県の平均正答率を上回っている。特に、「図形」に関する問題では、出題された問題全てにおいて全国、埼玉県の正答率を上回った
 ・「数と式」に関する事項の「素数の意味の理解をはかる」問題と「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する」問題では、全国と県の正答率を下回り、課題が見られた。

[理 科] (IRT バンド分布グラフ (横軸：IRT バンド 縦軸：割合) ※IRT スコアをベースに調査結果が示されている。
 (IRT：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。項目反応理論 (Item Response Theory))



【全体】
 平均 IRT スコアは、全国、県のスコアとともに上回った。IRT バンドごとの分布を全国、県と比較すると、中位層 (IRT バンド 3、4) の割合は高いが、上位層 (IRT バンド 5) の割合は低くなっている。

	全体 (%)
	平均 IRT スコア
伊奈町	5 0 8
埼玉県	5 0 2
全 国	5 0 3

【領域(エネルギー、粒子、生命、地球)】
 ・「粒子」に関する事項の、「化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化や原子や分子のモデルで表す」問題では、全国の正答率より+7.3%と大きく上回っている。
 ・「エネルギー」に関する事項の、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明する」問題では、全国の正答率より-10.2%と大きく下回り、課題が見られた。

■今年度の課題と学習指導の重点

【小学校】

国 語

全国の平均正答率と比較して、「我が国の言語文化」に関する事項に課題が見られる。また、問題別の調査結果において、「読むこと」の問題に課題が見られる。

正答率の低い問題は、「①時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる」ものと、「②目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。」ものであった。①については、世代によって呼び方が違うものを集める活動をしたり、異なる世代にインタビューをする活動をしたりしながら、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを考えられるようにする。②については、必要な情報を見付けるためには、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切である。内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるように、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりする機会を多く設定できるようにする。

算 数

全国の平均正答率と比較して、特に「数と計算」の領域に課題が見られる。

正答率の低い問題は、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」ものであった。ここでは、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見出すことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが大切である。既習の整数の加法に帰着できるように、分母が異なる二つの分数に共通する単位分数を見だし、それぞれの分数が見出した単位分数の幾つ分と表す活動を取り入れるようにする。単位を揃えて計算することが、分数だけでなく小数や整数の加法や減法の計算の基本となる考え方であることについての理解を深めることができるようにする。

理 科

全国の平均正答率と比較して、「エネルギー」の領域に課題が見られる。

正答率の低い問題は、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」ものであった。ここでは、学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切である。例えば、第3学年で学習する「磁石の性質」において、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を調べる際に、同学年で学習する「電気の通り道」での実験の結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理する活動などを設定する。「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多い。それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めることができるようにする。

【中学校】

国 語

全国の平均正答率と比較して、領域上目立つ課題はないが、問題別の調査結果において、「話すこと・聞くこと」の問題に課題が見られる。

正答率の低い問題は、「資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる。」ものであった。話し方の工夫を捉える際には、話の内容、目的や状況、相手に応じて様々な資料や機器を用いた話し方があることを理解した上で、その話し方が聞き手にとってどのような効果があるのかについて考えることが大切である。伝えたい内容を適切に伝えるために、どのような資料や機器を、どのように用いればよいのかを考える機会を多く設定したり、他者のスピーチ等における資料や機器の用い方に着目し、どのような資料を示して、どのように話し方の工夫がされているかを考える学習活動を取り入れたりする。

数 学

全国の平均正答率と比較して目立つ課題はないが、問題別の調査結果において、「数と式」の問題に課題が見られる。

正答率の低い問題には、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」ものがあつた。ここでは、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて根拠を明確にして説明できるようにすることが大切である。構想を立てる場面では、具体的な数から予想したり、文字を用いる必要があることに気付いたりしながら、「この形の式に変形すればよい」と見通しをもつことができるようにする。根拠を明確にして説明する場面では、表現が不十分な説明を取り上げることで、説明を洗練させていく活動や、問題解決の過程や結果を振り返って、数や条件を変えた場合について考える活動などを取り入れ、統合的・発展的に考察できる場面を設定できるようにする。

理 科

問題別の調査結果において、「エネルギー」の問題に課題が見られる。

正答率の低い問題は、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる」ものであつた。考察の妥当性を高めるためには、計画した観察、実験の結果から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行うなどして、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもたせることが大切である。科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定できるようにする。また、条件を変更した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明するなどの場面においては、「実験1と比較して…」など、比較して関係付ける対象を明確にして示すような言語活動を充実できるようにする。

伊奈町全体としては、上記の課題が見られた。このことを踏まえ、各学校においては、より一層授業改善に努めるとともに、一人一人の理解度や定着度に応じた適切な指導を行っていくようにする。

令和7年度 全国学力・学習状況調査
伊奈町全体の質問調査結果（児童生徒質問調査）

■伊奈町の児童生徒質問調査から

※質問事項は、小学校71項目、中学校72項目からの県の抜粋

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた値

(単位 %))

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	伊奈町の割合	埼玉県の割合	全国の割合	伊奈町の割合	埼玉県の割合	全国の割合
1 自分にはよいところがあると思う	82.4	88.5	86.9	88.9	88.0	86.2
2 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	92.9	94.8	92.2	95.4	95.3	92.2
3 将来の夢や目標を持っている	86.0	84.7	83.1	70.6	69.9	67.5
4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	74.3	81.6	78.1	78.8	81.7	79.2
5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	78.4	84.8	81.7	76.1	81.0	77.5
6 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	76.1	75.7	68.6	72.0	71.2	63.0
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	87.6	88.6	82.3	93.4	88.0	79.5
8 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	81.1	89.3	83.3	93.8	89.9	84.3
9 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	92.4	92.1	90.4	87.3	89.5	88.3
10 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	92.4	93.0	91.6	71.2	74.3	75.2
11 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	79.8	81.7	79.9	57.8	64.2	63.4

 全国平均より+1以上

 全国平均±1未満の範囲

 全国平均より-1以下

■伊奈町の児童生徒質問調査から

県が抜粋した10の質問項目において、小学校では4項目、中学校では6項目で全国平均を「+1以上」上回った。中でも、質問事項3、6、7の項目について、小・中学校ともに、全国平均を上回った。引き続き、探究的な学習や自分の考えをわかりやすく伝える活動を充実できるようにし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めていく。

一方で、小・中学校ともに、4項目で全国平均を「-1以下」と下回った。特に、「5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」の項目については、昨年度に続き、小・中学校ともに全国平均を下回っており、課題となっている。児童生徒が学びの中でつまずきを乗り越えたり、さらに深めたりできるようにするためには、教師による的確な支援に加え、児童生徒自身の主体的な行動を促すような働きかけが求められる。身の回りの事象に目を向けたり、既習事項との関連を意識できるようにしたりすることで、自ら課題を捉えて解決に向かって工夫する力を育成できるようにする。

今後も引き続き、学校と家庭、地域が連携してそれぞれの役割を果たしつつ、児童生徒が基本的な生活習慣や、社会のルールを身に付けられるよう教育活動を行っていく。